

持続性のノウハウ学

陸前高田で講演 若者の自立支援テーマに

陸前高田市の一般社団法人・SAVE T A K A T A は4日、高田町の高田大隅つどいの丘商店街で「自立支援における地域連携と対人関係」をテーマにした講演会を開いた。

認定NPO法人・育てえた。講演会は、若者への自立・就労支援体制の構築のための基礎知識を学ぼうと企画。市社協やNPOの職員ら10人が参加した。

工藤さんは低所得者の生活を経済的に支えるという制度下にあるからこそ、自立支援の重要性を説いた。生活保護を4年間受給した若者がいた場合を例に挙げ、「税金で約1億円をその若者にあげたことになる。一方、就業すればその若者は40年で約5000万円を税金として納めることになる。支援をしないとしないで1億5000万円のコストギャップが生まれ、誰もが見て

見ぬふりはできない」と熱弁した。また、「最終ゴールは若者の就業ではない」と語り、

「つまずき続けること。つまり支援の持続性が求められる」としたうえで、「非営利の組織が活動を継続するには、寄付者や支援企業が必要。その支援者が満足するような活動成果をしっかりと出し、事業の必要性を認めてもらうのは持続性を持つための原則」と語った。

さらに「ノートなどで就労の空白期間があるといった場合、履歴書を企業側に送った時点で不採用となるケースが多い。インターンシップでその人の働きぶりなどを直接見てもらって就業につなげる」といったやり方もあると語った。

で棒を落ちないように支え、その状態で動いてみたり、バラバラに並べたいすでのいす取りゲームをしたりし、相手の呼吸を感じる」ことにアプローチした。後半には風を絵で表現する作業も。宮沢賢治が作中で風をオノマトペ(擬音語)で表現したことを参考に、参加者らは絵の具などを使い、色や文字の独創的な世界を画用紙上に広げていた。



秋田県仙北市の劇団「わらび座」は2日、大船渡市盛町のリアスホールでワークショップ「風の姿を表現しよう」を開いた。地域の親子らが参加し、体や絵を使った自由な表現方法で芸術と親しんだ。

同劇団は、日本の民族文化をベースにしたミュージカルの公演などを国内外で行っている。29日(金)には同ホールで、岩手の童話作家・宮沢賢治の「風

の又三郎」を題材にした劇を公演することに なっており、ワークショップもこれに伴い企画された。

ワークショップと劇の公演は、ホールを運営する同市民文化会館の自主事業の一環で実施。ワークショップには小学1年生から大人まで10人余りが参加した。

この日講師役を担ったのは、わらび座で演出家などを務める長掛(おさかけ)憲司さんと、同じく俳優の三重

に、長掛さんと体をを使った演劇のトレーニングやゲームを体験。複数人が人差し指のみ

風の姿を表現する

わらび座がワークショップ

大船渡



陸前高田市の一般社団法人SAVE T A K A T A (佐々木信明代表理事)は4日、県立大船渡東高校(角館覚校長)で、情報処理科2年23人を対象にICT(情報通信技術)のキャリア教室を開いた。生徒たちはワークショップを通し、身近な問題に活用できるICTの可能性について考えを深めた。

教室は若い世代へのICTの普及や、気仙地方でICTを使った

ICTの可能性探る

大船渡東

生徒対象にキャリア教室

はそれぞれ500円増し。申込締切は15日(金)。問い合わせ、申し込みは同市民文化会館(TEL26・4478)へ。